足が折れ
指が曲り
嘴のように唇が突き出
これは何ということだ
何という人間だ

何ものかによってなされたことども
ーここに居た

あの日幸いに居なかった
（広島に居合わせなかった）
自分の姿を
みつけ出す

逃げていった人たちが
死んでいった人たちが
~~[illegible]~~
此処に居た
その裸の群れの中に
その恐怖の表情の中に
その無心な眼の中に
胸うたれた人々をみつけた
君の父母も　あなたの妻子も

日本の国民すべてが
家も夫を失い　飢えながら　さまよい
（一部の生存者の嘆き）

もう次の戦いへの地歩を築こうとして
滅びゆく日本の上に原爆を落した
そんな醜悪な意図のもとで
日本の二十万が殺された、
これは我々であった。
そしていつかまた
あなたがたもまたそうなりうる

そのはてに　広島で　この人々
全日本民衆に代り
世界の人民を殺さんとするものの手により
ころして殺された　その姿

足が折れ
指が曲り

そうさせぬために
みつけ出した　その恐怖を
その悲惨を
その中に嘘も[illegible]て
自分の生き方を
この身の明るさのなかに
照らし出せよ。

それは何という恐怖だ　悲哀だ
それはなんという怒りだ　憎悪だ

この憎悪のなかに
自己を照らしめよ

この瞬間に死んだものの姿ではない
いつか生きてゆけないわめきつつある
我々人間の戦禍に陥入るものを
伸ばため　我々の心に叫びつつある

丸木位里
赤松俊子「原爆の図」に寄せて、

その顔は火と水と晴れることのない暗黒にふくれる、
その顔は血と埃と膿と火傷の臭いに閉ざされる
その顔は~~[illegible]~~恐怖と凝結した悲哀と働く者の沈んだわむ、
底果ん近い

あまたの犠牲は生きている
生きてわたしの心の襞々をとりすがる
その苦悩の生えの執着はわたしの心をひきすぎる